

平成25年10月15日

各部局等の長 殿

高浜市長 吉岡 初 浩

平成26年度（2014年度）予算編成について

わが国の経済状況は、リーマンショック以降長期のデフレと景気低迷に陥ることとなった。そこで、政府は「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」を推進し、本年9月の月例経済報告の基調判断では、「景気は、緩やかに回復しつつある」「デフレ状況ではなくなりつつある」と上方修正されている。この状況を受け、平成26年4月から消費税率を8%に増税することが決定されたが、景気が腰折れする懸念もあり、経済状況の不確実性は引き続き大きい状況にある。

本市においても、引き続き厳しい財政状況が見込まれる。先に試算した中期財政見通しにおいて、平成26年度は2億円、平成27年度は7億円の財源不足が見込まれる。歳入では、市税収入がリーマンショック以降の低迷から少しずつ回復はしているものの、企業の市外移転などにより財源の確保が最重要課題に上げられる。基金では、財政調整基金が平成27年度には枯渇する見込みであり、公共施設等整備基金は今後の公共施設の保全を考慮すると依然不足している状況にある。また、一般会計から特別会計に対する繰出金は、2年後には1億円の増加が見込まれ、今後の社会保障関係費等の市民生活に関わる経費が増加することを考慮すると、2年後の予算編成は困難な状況となり、安定した行政サービスの提供に大きな影響を与えることとなる。

こうした状況の中、平成26年度は第6次総合計画中期基本計画がスタートする重要な年度である。平成26年度の予算編成に当たっては、前期基本計画の事業内容を検証するとともに、一つ一つの事業を総点検し、原点回帰を図る絶好の機会である。今まで行ってきた事業の効果と今後の施策展開についてしっかり問いかけ、各事業の目的、目標を再確認する必要がある。前述の2億円のかい離を埋めることは簡単なことではなく、職員一人一人が危機感を持ち、知恵を絞り、汗を流して、予算編成に臨むとともに、再確認した各部局の目標に向かって勇往邁進していかなければならない。そして、中期財政計画の的確なる運用及び計画的・効果的な財政運営につなげていかなければならない。

1 平成26年度予算編成の考え方

平成26年度の予算編成では、『高浜市の今をアシタにつなぐスタート予算』として、次のとおり3つの基本的な考え方を掲げることとする。

(1) 事務事業の総点検

将来を見据えた計画的・効果的な財政運営の第1弾として、形骸化し機能していない枠配分方式を財政担当部局による査定に変更し、すべての事務事業について総点検を行い、徹底したムダの排除、既存事業の見直し・再構築などにより、市民ニーズの変化に対応した予算を計上する。

(2) 中期基本計画の着実な実施

平成26年度は、中期基本計画がスタートする年度である。前期基本計画の点検・確認結果を基に、次なる施策を計画的かつ効果的にスタートさせること。

(3) 重点施策への財源配分

限られた貴重な財源を有効に活用するため、予算編成会議による協議の結果等を踏まえ、緊急度・優先度が高い施策や市民にとって真に必要な施策に重点を置いた予算配分を行う。

2 重点施策

平成26年度の予算編成における重点施策は、第6次高浜市総合計画の基本計画の体系に基づき、次のとおりとする。

I. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

◇まちづくり

- ・まちに対する愛着の向上につながる事業

II. 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

◇こども・教育

- ・待機児童ゼロ、子育て子育て支援の充実につながる事業
- ・幼保小中の体系的な教育の実現につながる事業

III. 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

◇産業・防災

- ・企業誘致・企業支援につながる事業
- ・防災・減災につながる事業

IV. いつも笑顔で健やかに つながり100倍ひろげよう

◇健康

- ・認知症対策の強化につながる事業
- ・「生涯現役のまちづくり」の推進につながる事業